

## 週報①

### 広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2021年												2022年																	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月 ~2日	10月 ~9日	10月 ~16日	10月 ~23日	10月 ~30日	11月 ~6日	11月 ~13日	11月 ~20日	11月 ~27日
カンピロバクター	114	65	137	114	169	115	122	85	45	63	84	78	76	34	43	69	64	99	99	47	48	28	14	17	18	22	14	32	20 (22)	9
病原性大腸菌	39	25	52	61	55	64	63	45	42	102	62	44	29	41	37	62	88	90	30	53	40	13	4	10	11	6	9	21	14 (16)	9
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	1	2	3	2	0	3	2	0	0	0	0	0	1	1	10	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
サルモネラ	6	5	3	1	5	8	10	23	9	25	7	4	4	3	7	5	5	3	16	12	12	1	7	3	2	1	1	0	3	1
黄色ブドウ球菌 MSSA	14	16	33	19	39	25	17	15	20	26	21	12	35	12	25	20	32	22	26	19	13	7	2	3	5	3	2	6	7	3
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	10	15	25	31	13	14	19	10	18	8	18	19	10	9	19	28	9	17	18	15	7	0	4	2	3	5	7	2	5
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	2	1	3	4	4	0	4	5	3	3	3	3	0	0	0	1	3	4	1	5	0	1	1	1	1	1	0	0	0
ロタウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	5	7	3	0	0	0	1	1	1	0	0	1
ノロウイルス	4	5	6	11	13	9	0	0	0	0	0	2	4	0	7	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0

\* ( )は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

## 週報②

### 広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報 令和4年第47週(11月21日~11月27日)

#### 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	5	結核	5			1		4		
三類	0	発生なし	0							
四類	6	つつが虫病	5	2				3		
		レジオネラ症	1							1
五類	9	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1					1		
		梅毒	8					4	3	
新型インフルエンザ 等感染症	19,939	新型コロナウイルス感染症	19,939	2,324	1,864	1,961	850	8,699	1,009	3,232

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町  
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町 北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

1 新型コロナウイルス感染症

第47週に8,699件の報告があり、増加が続いています。今年の冬は、インフルエンザと同時流行する可能性が指摘されています。マスクの正しい着用、手洗い、ゼロ密、換気など基本的な感染予防対策に加えて、体調不良時の外出自粛など、一人一人が対策を徹底することが大切です。

2 感染性胃腸炎

定点当たり4.68人の報告があり、増加が続いています。冬季はノロウイルスなどによる感染性胃腸炎が多くなります。手洗いや便・吐物の適切な処理など、感染予防対策を徹底しましょう。

3 つつが虫病

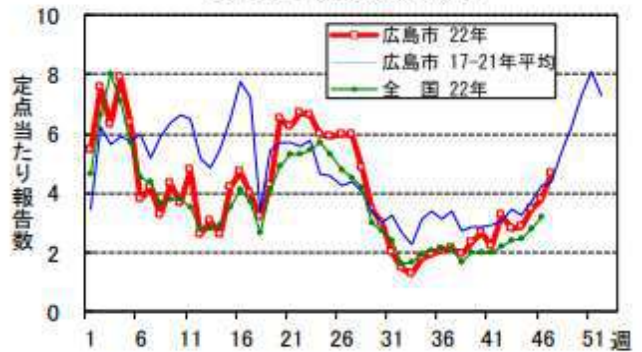
3件の報告があり、今年の累計は8件となりました。山や草むらに入るとき、農作業を行うときは、長袖・長ズボン、帽子、手袋などを着用し、肌の露出を少なくしてダニ類の付着を防ぎましょう。また、屋外活動後は入浴しダニ類を洗い流しましょう。

4 梅毒

今年の累計は292件となり、非常に多い状況が続いています。梅毒は性的な接触により感染し、治療せずに放置すると、脳や心臓などに重大な病変を起こすことがあるため、早期発見・早期治療が大切です。

【参考】保健センターの無料・匿名の梅毒検査(広島市) <https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/72/2986.html>

感染性胃腸炎の流行状況



■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年(注)	発生記号
フィロ	インフルエンザ	-	-	1.30		小児科	流行性耳下腺炎	2	0.09	0.05	
小児科	咽頭結膜熱	2	0.09	0.32		小児科	RSウイルス感染症	2	0.09	0.23	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10	0.45	1.83		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	103	4.68	4.36		眼科	流行性角結膜炎	2	0.25	0.35	
	水痘	2	0.09	0.31		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	4	0.18	0.82			無菌性髄膜炎	-	-	-	
	伝染性紅斑	1	0.05	0.12			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.06	
	突発性発しん	2	0.09	0.27			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	9	0.41	0.13			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	↔	↔	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	35
小児科定点数	22
眼科定点数	8
基幹定点数	6

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	4	117	10歳未満・1人、70歳代・1人、80歳代・2人
4	つつが虫病	3	8	70歳代・3人
5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	8	80歳代
5	梅毒	4	292	20歳代、30歳代、40歳代、50歳代